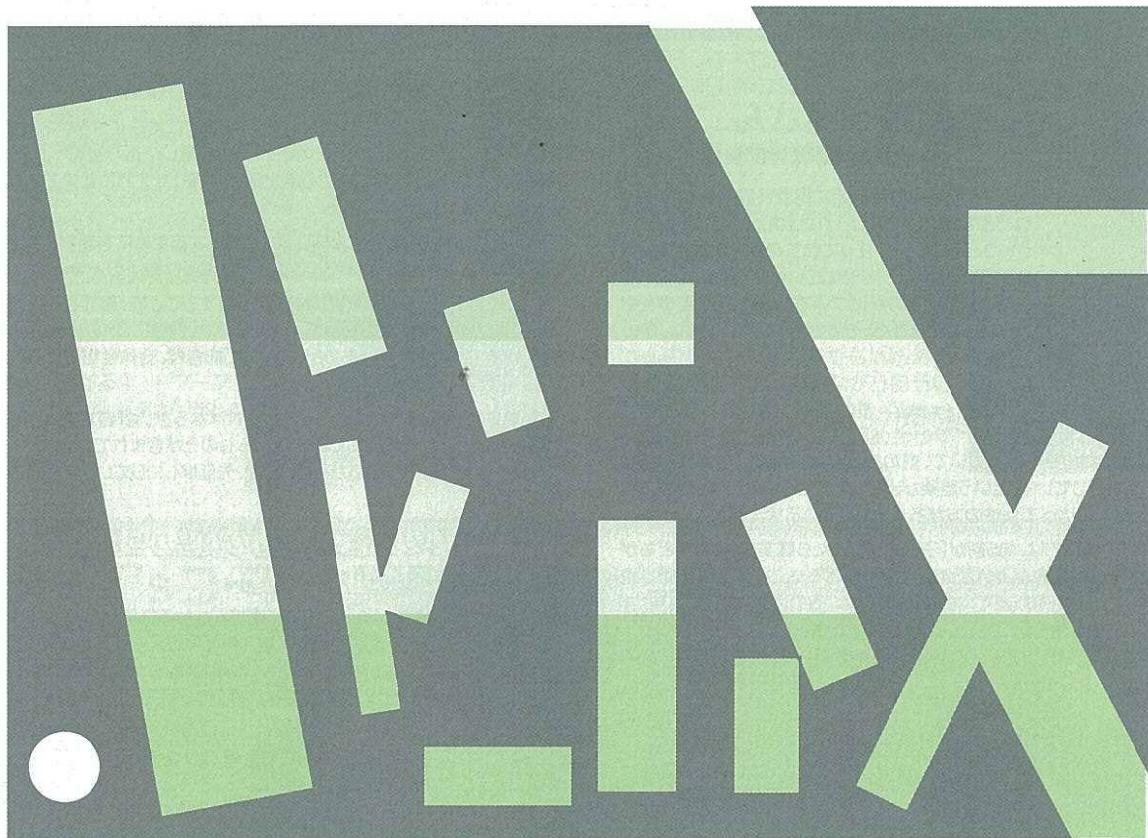


鹿児島県

男女共同参画 センター だより



2013.9
vol. 25

特集
「第2次鹿児島県男女共同参画基本計画」
センター事業から
グループ紹介
センター・センターSコーナー
相談室から
インフォメーション

県では、男女共同参画社会の実現に向けて、これまで、第1次男女共同参画基本計画に基づき、様々な取組を進めてきましたが、このたび、同計画の成果と課題を踏まえ、鹿児島県における男女共同参画社会の形成がさらに促進されるよう、平成25～29年度の5年間を計画期間とする「第2次鹿児島県男女共同参画基本計画」を策定しました。

男女共同参画社会の実現には、様々な立場からの推進が欠かせないため、県民の皆様の理解と協力が必要です。

今年度は、当計画のスタートの年として、様々な機会を捉えて県民の皆様に計画の趣旨を広く周知していくこととしています。

まず、男女共同参画週間に、男女共同参画社会についての正しい理解を深めるために、男女共同参画を自分の生き方や生活に引きつけて考えるイベントを民間団体ピア・スタディングと協働で実施し、その後リーセミナーとして、県内9カ所で講演会などを開催することとしています。

また、子どもの頃から男女共同参画への理解を深め

ることが大変重要であるため、教育現場における取組を推進する「子どもたちの男女共同参画学びの広場事業」を今年度から新規に実施することとしています。

今回の特集では、男女共同参画週間事業の内容を中心にお伝えします。

県のHPから当計画全体をご覧になれます。

<http://www.pref.kagoshima.jp>

サイト内検索 参画基本計画

検索

基調講演 第2次基本計画のつくりと役割



講師：武隈 晃さん

(鹿児島大学教育学部長)

第2次基本計画の策定に男女共同参画審議会の専門部会長として関わられた武隈先生に、計画がどういうしくみで成り立っているのか、その特徴と男女共同参画社会の実現にどんな役割を果たす可能性を持っているのかについて、大変分かりやすくお話をいただきました。その要旨を紹介します。

「戦略的取組」の設定と基本計画との役割

- 第2次基本計画には、重点的、集中的、横断的に推進すべき6つの取組を「戦略的取組」として位置づけていますが、このことにより、急いで取り組むべき「緊要の課題」を共有でき、そのため必要な資源（人、物、資金、情報）をそれに集中できるという大きなメリットがあります。（図2参照）
- そして、計画の評価の際には、目的を達成するために有効な取組が整理され、必要な資源がきちんと手当てされているかが大変重要な視点の一つとなります。
- さらに、重要な点は「戦略的取組」を設定することで、部局ごとの縦割りの仕事では対応が難しい課題の存在を認識することができ、同様に、他の様々な課題へも横断的な取組が推進される可能性があるという点は、総合性、全体性を有する基本計画である当計画に、期待される役割であると言えます。
- 「戦略的取組」は、すぐに取り組まなければならぬ課題ですが、その中には、すぐに成果ができるものと世代を超えて成果が出るものとが含まれています。
成果がすぐに得られないからといって、先延ばしにしていいと言うことではありません。

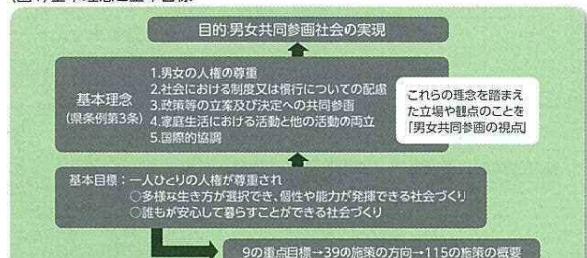
「一人ひとりの人権の尊重」の視座から捉える複合的な生活課題への対応

- 当計画には、男女共同参画の推進に直接かかわる施策とそうでない施策があります。前者は、ゲームで言えば直接チェックメイドできるチェス型の施策であり、後者はその施策、本来の目的を持った施策で、多くの取組（カルタ）の中から男女共同参画の推進に結びつくものを探し出し、整理して男女共同参画の視点から再編していく作業が必要となるカルタ型の施策と言えます。
- このような作業の積み重ねが、この計画のつくり構造を成しています。このようなつくりによって、これまで縦割りで落とし込んでいた仕事に「男女共同参画の視点」の横串を通して、生活者の側から生活レベルで行政課題を捉え直すことで、縦割りでない県民一人ひとりが抱える複合的な課題への対応が可能になるという役割を担っています。

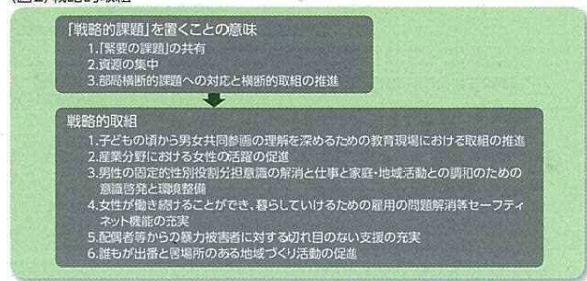
世代を超えて「希望のバトン」をつなぎでいく

男女共同参画社会の実現には、教育が非常に重要な役割を果たすため、当計画では子どもの頃からの教育現場での取組を「戦略的取組」の一番に掲げていますが、このような取組は、成果がすぐに出るわけではありません。成果が上がるまで、男女共同参画基本計画…希望のバトンを世代を超えて引き継いでいかなければなりません。

(図1) 基本理念と基本目標



(図2) 戰略的取組



武隈先生の講演資料より

○当計画は、男女共同参画社会の実現に向けての最も重要な基本価値は、「一人ひとりの人権の尊重である」ということを特に強調し、この立場で形づくられています。（図1参照）



男女共同参画週間事業のオープニングに出水市立大川内中学校の全校生徒4人が合唱してくれました。



2013 鹿児島県男女共同参画週間事業

男女共同参画living学講座 第2次基本計画を指針に、「私を生きる!」について考える4つの学びの場を「男女共同参画 living学講座」としてデザインしました。

I 「働く」リアルのミモザ・リポート ~働くあなたのウレシ・シンドイ…その正体?~

始良市の男女共同参画推進員のグループ「ミモザ」(グループ紹介参照)による調査リポートを基に、もっとよく、自分らしく、前向きに働くにはどうすればいいのか、働くことに関する情報共有やグループディスカッションを行いました。

◆70代の方々が抱えていた困難が、20代のいまにも引き続いている

働くことへの法律や制度は変わっていませんが、正規を問わず、どんな働き方であっても、20代から70代の13人の方々の「働く」ににこぼれるつやさには、世代を超えて、同じような悩みや困難がありました。

なかで女性の「働く」をめぐらす、今まで多様で複雑な現実のキビシサ、なかなか追いついていない制度や慣習があるという現状を再認識し、次の世代へ、よりよく働ける場を創っていくために、小さな1歩から行動することが大切なことを確認しました。

「せっかく仕事があもしろくなってしまった頃に結婚退職。社会と関わらないといきう気持ちは持たぬながらも、子育てで介護の日々が辛い…」……70代女性「東京の大手建設会社で社会人としての第1歩」。

女性労働者は、「補助的業務を担う母職員と呼ばれる」……50代女性「短大卒業後、保育園に就職しましたが、結婚を機に退職しました」。

それは、自分の希望でもあり、当时的職場の慣習でもありました…」……40代女性「母子家庭です。正職員として働きたくても、子どもが小さいため…」……30代女性「二人の子どもがいます。一人が熱を出して仕事を休み、やっと熱がひいたと思ったら…」……20代女性

このような「つぶやき」への共感は、第2次基本計画の席々にも息づき、広範多岐にわたる「働く」をめぐる課題を、尊重されるべき「一人ひとりの人权」として掲げ出しています。



グループ紹介

あいらみモザの会

「あいらみモザの会」です。「ミモザ」は男女平等のシンボルの花と言われています。始良市在住の「鹿児島県男女共同参画地域推進員」で24年5月に結成し、現在8人です。伊佐市への移転が活動のスタートとなり、毎月例会等をしています。

昨年は県の週間事業で、他の団体と一緒に多様なライフスタイルを生きる希望と困難のタイトルで、分科会で調査研究報告をしました。また始良市と連携し、「ダイアログカフェinあいら」ーあなたの毎日はどんな日々?ーでも賛同しました。また、151人の方々とダイアログしたその声をもとに、始良市へ「男女共同参画の推進に関するコメント」を出しました。

本年も、県の週間事業では「働く」リアルのミモザ・リポート「働くあなたのウレシ・シンドイ…その正体?」として、分科会で調査研究発表をしました。また、市の推進訓練での報告や、毎月の自主研修、講師活動も予定しています。

この調査事業をきっかけにメンバー同士の交流と学習がとても深まると実感しています。まだまだ動き出したばかりですが、これからもゆるやかなつながりを大切に、地域で男女共同参画の学習と実践を積み重ねながら、自分たちらしく活動していきたいと誓っています。



Start up! 第2次鹿児島県男女共同参画基本計画 ~第2次基本計画は、鹿児島の豊かな未来を築く希望のバトン~ 世代から世代へ…わたしからあなたへ…今日のわたしから明日のわたしへ…希望のバトンをつなぎたい!

II 「地域で生活する意味」と地域コミュニティの在り方 ~だんだん小屋からの報告~

NPO法人福祉相談センターにじの上対修さんから、県の「男女共同参画の地域づくり協議事業」として実施した「男の居場所 男談(だんだん)事業」の報告があり、それを中心にこれまでの地域コミュニティの在り方について参加者みんなで考え、学びを深めることができました。

*「だんだん事業」について~南九州市の山陽路地区での取組~

- 地域の課題を抽出せずに地域に生きる一人ひとりを捉えたとき、次のような課題が見えてきた。
 - ・行事中心で徹てた一定年齢層の男性の居場所がない
 - ・地域で保育が必要な高齢者の居場所がない
- また、50~60代の男性が中心になつた自分たちの居場所「男談小屋」を作り、そこで、刃物研ぎやそば打ちなどそれぞれの得意なことを地域の方々にサービスとして提供する活動が始まった。
- そのうえ、地域の子どもや女性も巻き込んだ活動へと発展していったが、当初の目的であつた見守りが必要な高齢男性の参加は無く、また、若い人が出てこないという課題も出てきた。

◆地域コミュニティの一人ひとりに思いを寄せる…

- 地域コミュニティは、地域に生活する一人ひとりの人格を尊重できているか、男女共同参画の視点から運営されているのかどうかがとても大切です。
- コミュニティの中に、見守りが必要な人、孤立しがちな人がいる場合は、例えば行事等には出でなくてても「見守りが必要な人がいるんだ」とその人の存在に地域の人々が心を寄せて意識化できているかが大切で、それがコミュニケーションの力です。参加するしないはその人の意思決定として尊重しつつ、待ちましょう。
- 若い世代は、子育てや自身の生活で一杯で、なかなか地域活動に参加できない現状があります。どうして参加していないのか?その背景に心を寄せせてみると、何かコミュニティの力でサポートできることがあるかもしれません。今は、支えられる側である人が、いかに地域でのサービスの送り手として、支える側の人になってくれるかもしれません。コミュニケーションの「自己と共同」には、こんな時間轴を置く深い深さが必要です。

第2次基本計画は、「一人ひとりの人权の尊重に根ざした自治の実践による強みがお出番と居場所のある地域コミュニティづくりに取り組みます。

男女共同参画 living学講座閉幕式 ~living cafe 先駆のジンセイ、聴かせてください~

4つの男女共同参画living学講座からの報告の後、男女共同参画を学び続けている高寿の大原タツ子さん、古希の坂道幸一さんお二人のこれまでの長い人生の中での「働くこと」「家庭のこと」「教育のこと」など様々なお話をあおとお茶とお菓子をいただきながら、ゆっくりと聞かせていただきました。

◆男女共同参画の学びが人生を豊かにしてくれた…

- 4つの男女共同参画living学講座を通して、テーマはそれぞれであっても、そこから発信され、伝えたいメッセージの模倣には、すべてに「一人ひとりの人权の尊重」への思いが貫かれ、「私を生きる力」を身につけることの大切さを実感しました。
- 女性が結婚しても、子どもができる仕事を辞めずに働き続けることがとても難しかった時代、法制度も整っていなかった時代に、仕事を続ける困難さに想いを絆せ、先輩の辛さや悔しさに共感するとともに、男女共同参画を学ぶことにより、人生を豊かに「自分らしく生きる」姿に勇気をもらいました。
- 妻が家事をするのは当然だとと思っていたが、男女共同参画を学ぶことにより、妻の「人权」を意識できていなかった自分に気がつき、これまでの自分を真摯に反省し、変わろうと努力する姿に若い世代をはじめ参加者一同感動し、男女共同参画の学びの包容力を実感しました。

一人ひとりが人权の主体として自分の本来持つ力を使わることなく、その力を社会に活かしていく社会を次の世代へ手渡すために、そして豊かな未来のために、希望のバトン「男女共同参画基本計画」を継いでいきたい…



III 自分らしく生きるために… ココロとカラダの処方箋

鹿児島大学医学部保健学科准教授の下敷嶋須美子さんを講師に迎え、リプロダクティブ・ヘルス・ライツについて、解説いただきながら、ワークショップを通してリプロダクティブ・ヘルス・ライツを自分のこととして実感をもって捉え、自分らしく生きるためにについて考えました。

◆リプロダクティブ・ヘルス・ライツ…

それは、人間として生まれながらにして持っている基本的な権利です。
自分らしく生きる…そのためには、まず、「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」という概念を正しく理解することがとても大切です。

リプロダクティブ・ヘルス・ライツとは

リプロダクティブ・ヘルスとは、人間の生殖システム、その機能と(活動)過程の全ての権利において、身体的、精神的、社会的に健全で尊厳な状態にあること。リプロダクティブ・ライツは、全てのカップル個人が自らの夫婦のどちらの名前、出生期間、並びに出席する時を責任を持つべきで、そのための準備と手段を得ることができる基本的権利。並びに最高水準の性に関する健康及びリプロダクティブ・ヘルスを得る権利。

自分らしく生きることは、自分のココロとカラダを大切にできること、自分が自分でいられること、そして社会のなかで健やかにしあわせに生きていくことです。

輪軸をハッピ一度、横軸を年齢にしたシートに誕生から学年階級、様々なライフイベントを書き込み、その時のハッピ一度をグラフにして、自分のハッピ一度は、自分自身の選択だけでなく、社会の価値観や制度など社会の有様とともに大きく関係していることが分かります。

また、ハッピ一度は、人の開脚性によっても大きく左右されるため、相手を尊重しつつ自分を表現するアサーティブ・コミュニケーションを身につけて、自分の人生を主体的に生きることが自分らしく生きることに繋がります。

第2次基本計画は、「わたしのココロとカラダはわたしのもの」

このアタマで大切なことに、尊重されるべき「一人ひとりの人权」として感じて、確かにありがとうございます。



IV 人生をゆたかに彩る恋の男女共同参画方程式 ~あなたの恋アイ、大丈夫?~

鹿児島純心女子大学准教授の岡崎和代さんと学生サークルSL&の皆さんにより、若者たちの恋愛や性行動の実態などについての解説とともに、4人の若者の恋愛観を基に参加者同士が世代を超えて自由に語り合えるワークショップになりました。

◆レンアイで傷つかない…

「あなたの恋アイ、大丈夫?」と聞かなければ、アイシルルの統きにジェンダー、人種というこなばの重く深い意味に縛らざ切り尖った問題があるからです。

- 若い女性たちは、小さい頃から「女の子なんだから」と言われたり、TVや映画などのメディアを通して恋愛についての女子力みたいなものを見聞きするうちに、女の子は彼に従い、彼に近くこそが女らしく美しいことだと思い込むなど知らず知らずのうちに、恋愛における女性像を内面化してしまいます。
- また、友達同士の中で、彼氏がないことはかわいそうなことという評価を受けてしまって、「恋愛をする」は本人の自由なのに、「と思ひながらも、ビア・プレッシャーのなかで、若い世代は、恋愛に突き進んでしまうことが多いです。
- 恋愛や結婚、出産など人生の様々な場面で抵抗を迫られるとき、男女共同参画の視点があるかないかで、その先の人生が大きく変わってきます。
- 性別にかかわらず一人ひとり大切にされる男女共同参画の学びを深めて、メデイアなどで左右されず、選択を他者に委ねることなく、主体的に自分の生き方を選択していく力をつけることがとても大切です。

第2次基本計画には、恋だと愛だと、そんなことばはないけれど、「恋する」「愛する」に傷つくあなたに寄り添う「私を生きる!」方程式が、いっぱい話まっていきます。



●子どもたちの男女共同参画学びの広場事業

自分も他者も大切にできる子どもの育成を目指すとともに家庭や地域住民の方々と連携しながら、地域全体の人権意識や男女平等意識の醸成を図ることを目的に県内7カ所の小・中学校で実施します。

「誰も同じ人間なんだから仲間」と思える人になりたい」「自分の意見を素直に言えるようになりたい」「一人ひとりはみんな違う。だから悲しくなったり、怒ったり、意見が違ったりするから、自分が楽しくないんだ」など固定観念のせいで人権を諦めてしまうのがこわいと思った人々

これは、これまで、県内各地で小中学生を対象に実施した人権・男女共同参画開拓のワークショップを受けた子どもたちの感想です。我々大人は、子どもたちの素直で率直い感性を大事に育むとともに、子どもたちからのメッセージとしてしっかりと受け止め、各々が行動に移すことをとても大事です。

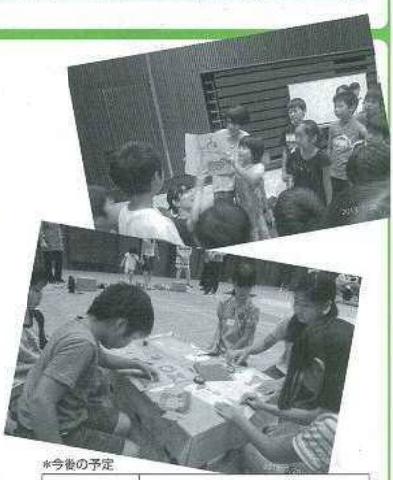
この事業が、子どもたちと一緒に先生や保護者、地域の方々大人たちも人権・男女共同参画について学びを深める場になることを願って実施します。

9月2日(木)	伊佐市立洞之尾小学校	11月27日(水)	喜界町立喜界小学校
10月21日(月)	出水市立出水小学校	11月29日(金)	鹿屋市立桜北中学校
11月8日(月)	南九州市立南九州市小学校	12月10日(火)~11日(水)	中郷町立中郷小学校
11月25日(月)	志布志市立有明小学校		

●男女共同参画リレーセミナー

このセミナーのスタートにあたり、県内9ヶ所で男女共同参画社会への理解を深めるセミナーや地域で推進するための意見交換会を開催することとしています。

これまでに、南島、恵良、伊佐、大島、北森地区的4地区で実施し、多くの県民の方々にご参加いただきました。



*今後の予定

10月 3日(木)	大隅地区(鹿屋市中央公民館)
10月10日(木)	熊毛地区(西之表市民会館)
11月 6日(水)	沖永良部地区(和泊町・えらぶ長浜館)

*鹿児島、恩之島地区は、日程が決まり次第、順次お知らせします。

セセター事業から «2013年度上半期»

DV相談業務研修会

6/4

DV被害者支援に関する相談員等を対象とした研修会を開催し、石本宗子さん(久留米市男女平等推進センター)を講師に、DV被害者支援に必要な知識を習得し、ワークショップを通して相談対応や二次被害防止について学び、大変充実した研修会となりました。



男女共同参画基礎講座

6/16, 6/23, 7/6, 7/13

センターオープン当初から開催している人気講座には、今年も100人を超える応募がありました。たまつゆかりさん、高崎恵さんは講師で、第2次鹿児島県男女共同参画基本計画を柱とした男女共同参画の基礎知識や、身近なところでの男女共同参画の理解を広めるためのスキルを学びました。

最終日の講座終了後、受講者の交流会を実施し、和やかな雰囲気の中、緩やかに繋がるネットワークをつくりたいという声があがりました。



学校への男女共同参画お届けセミナー 7/9

前期は、男女共同参画に関するセミナーに、県立岩川高等学校へ講師を派遣しました。今後の実施予定は、次のとおりです。

(今後の予定)

9月17日 奥立高山高等学校
9月18日 県立加世田高等学校
9月20日 県立野田女子高等学校
10月18日 奥立与論高等学校
11月 8日 奥立指宿養護学校
12月11日 奥立鹿児島中央高等学校
12月13日 奥立山川高等学校
1月10日 奥立種子島中央高等学校
1月23日 奥立鹿屋工業高等学校



小学生対象絵本づくりワークショップ 7/28

わたしがつくる わたしのはなし

～まっさが きみをまつて!!～

週間事業の子ども向けワークショップで今年は絵本づくりに挑戦しました。ファシリテーターの高崎恵さんのリードで子どもたちが初めて会う友達と協力しながら自分の絵本を作りました。活動の後半は、一人ひとりの違いや良さを認め合うすばらしい発表会となりました。



サポーターズ'sコーナー

4月20日(土)に今年度のサポーター委嘱式がありました。今回委嘱を更新されたのは、センター・サポーター3人と託児サポーター13人の合計16人です。センター・サポーターは事業運営をサポートしたり、センターの情報を発信したりします。託児サポーターは、託児サービスのある事業で事業実施の間預かった子どもを安全に見守ります。そのおかげで、センター事業が一層充実したものとなります。よろしくお願いします!!



センター・サポーターの皆さん

託児サポーターの皆さん

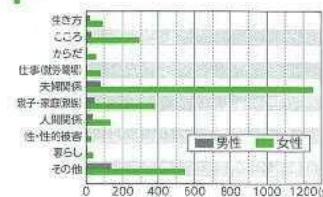
相談室から

2012年度の相談の状況

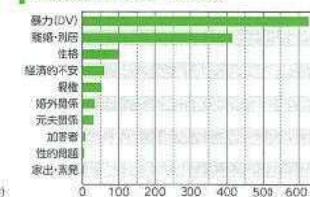
相談件数は、一般相談1,643件(電話1,409件、面接234件)、専門相談64件の計1,707件で、前年度に比し5割超の増加でした。相談件数の84%が女性からでしたが、男性からは、前年度の2倍超の相談がありました。相談者の年代別では、30代が最も多く、次いで40代、50代の順でした。

また、どの年代でも「ダメスティック・バイオレンス(DV)」及び「離婚・別居」に関する相談が多く、特にDVについては一般相談全体の4割に及ぶ625件で、昨年度に引き続き最も多い相談内容でした。中でも、20代からの相談は前年度の2倍を超えていました。

相談内容件数(一般相談)



「夫婦関係の問題」における相談内訳別件数(一般相談)



一般相談

[電話相談] 099-221-6630-6631
(受付時間) 水～日曜日 / 9:00～17:00
火曜日・休館日翌日 / 9:00～20:00
(休館日) 月曜日(祝日の場合は翌日)

[面接相談] 事前に予約が必要

専門相談

※すべて事前に予約が必要
【法律相談】第1・3・5火曜日(面接)
【メンタルヘルス相談】第3木曜日(面接)
【男性相談】原則第2土曜日(面接・電話)
(男性相談員による男性のための相談)

ぴあ・すてーしょん

鹿児島大学医学部保健学科サークル「ピア☆ぴあ☆かごしま」が、若者の男女交際の悩みやデートDV、性感染症等についての相談に応じています。

日 時 毎月第3土曜日 14:00～16:00
場 所 かごしま県民交流センター
1階ミーティングルーム

INFORMATION

アンフォーメーション

2013年度下半期に予定されている主なセンター事業
(場所の記載がない行事の会場は、かごしま県民交流センターです。)

★は、民間団体との連携事業
12/14(土)に同窓会開催

女性に対する暴力をなくす運動 期間(11/12～11/25)

街頭キャンペーン ★

期 日 11月12日(火) 鹿児島中央駅前
実施団体 国際ソロブチミスト鹿児島等民間団体・関係機関

アミュラン点灯

期 日 11月12日(火)と25日(月)

女性のための法律110番(弁護士による電話相談対応)

日 時 11月19日(火)10:00～16:00
予約先 099-221-6630(事前の予約が必要)

パネル展

期日 / 場所 11月12日(火)～24日(日) かごしま県民交流センター
11月13日(木)～25日(月) 県展展望ロビー

暴力被害者支援セミナー

日 時 11月22日(金)10:00～15:30
内 容 DVや性犯罪被害者相談に必要なスキルを磨くための研修会
講 師 竹下 小夜子さん(精神科医)
内 容 「DV・性犯罪の本質と求められる被害者支援」

デートDV防止セミナー

日時 / 場所 11月20日(水)13:00～16:30 唐津市吉田公民館
内 容 デートDV防止について地域住民を対象に講話やワークショップを実施
実施団体 鹿児島純心女子大学 学生サークル S&I

心が折れそうなビジネスマンが読む本

ビジネスは「しなやかに、おだやかに、したたかに」進める姿勢が大切。仕事をしっかりとこなしながら、ライフワークも充実する。リストラ圧力、起業・失敗、離婚、うつ…そこからライターや講師としての道を確立、社説など著者自身の実体験が多くて面白く読める一冊。
中森勇人 著 吉岡俊介 監修
ソフトバンク書籍(2010年5月)

新着図書情報

新しい本が 中から2冊を 入りました。 その中に 新着図書はセミナーのホットペーパーで紹介します。

LEAN IN -女性、仕事、リーダーへの意欲

社会生活に大きな影響を与える決定において、女性の声が平等に反映されにくい状況が続いているアメリカ。この問題は、日本ではより顕著。女性リーダーが生まれにくい原因はどこにあるのか?FACEBOOKの最高執行責任者が書いた全米大ベストセラーの話題作。

サンタバーグ・シェリル 著
日本経済新聞出版社(2013年6月)



情報提供 交流サロンのご案内 (男女共同参画センター関連)

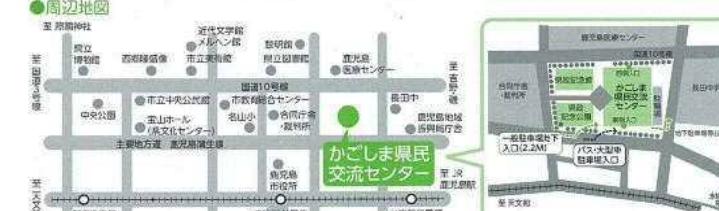
図書等の閲覧・貸出

男女共同参画に関する図書の貸出は、1人5冊まで
期間は3週間以内です。
団体等へはビデオ、DVDの貸出も行っています。

ミーティングルーム

要事前予約 登録団体優先
男女共同参画に関する学習会等にご利用いただけます。
(利用時間) 9:00～17:00
(休館日) 月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

周辺地図



交通案内

「JR利用」または「市電・バス」
鹿児島駅から徒歩約10分
(鹿児島市役所前)バス停下車徒歩約15分
〔水族館口〕バス停下車徒歩約5分

駐車場

約450台収容 150円/30分
※センター利用者は2時間まで無料。
総合案内等で2時間無料の承認を受けて下さい。

鹿児島県男女共同参画センター

(かごしま県民交流センター内) T892-0816 鹿児島市山下町14-50
■男女共同参画センターだよりの掲載記事(バックナンバーを含む)は、ホームページにも掲載しています。

TEL 099-221-6603

FAX 099-221-6640

電子メール harmony@kagoshima-pac.jp
ホームページ http://www.kagoshima-pac.jp